

令和元年度 第2回なかい戦略みらい会議 議事録

日時 令和元年7月31日(水) 10:00～

場所 中井町役場3階 3A会議室

【会議次第】

1. 開会
2. 座長、副座長選出
3. 議題
 - (1) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業について
 - (2) 改訂版総合戦略の策定について
4. その他
5. 閉会

【会議資料】

- 資料1 : 令和元年度 総合戦略実施体制
資料2 : 総合戦略事業 進捗状況
資料3-1 : 改訂版総合戦略(案)
資料3-2 : 総合戦略の改訂内容
資料4 : 総合戦略に関する今後の計画
参考資料 : まち・ひと・しごと創生基本方針2019

【会議録】

1. 開会
町長より開会
2. 座長、副座長選出
座長は杉本委員、副座長は大槻委員に決定
3. 議題
 - (1) 中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業について

座長 では、本年度の第1回ということで、よろしくお願ひいたします。議題のほうにありますように、今回は二つあります。まず、議題の3、カッコ1『中井町まち・ひと・しごと創生総合戦

略事業について』資料の説明を事務局からお願いいたします。よろしくお願いいたします。

事務局 では、資料の説明は私からさせていただきます。資料の 1、資料の 2 をご覧いただきます。まず、資料の 1 からご覧ください。

「令和元年度総合戦略実施体制」になります。総合戦略の推進に当たりましては、これまで実施体制をお示ししてきましたが、本年度につきまして、全体の実施体制につきましては変更はございませんでして、総合戦略を推進する上では、なかい戦略みらい会議のほうで総合戦略を策定していただいたり、事業の報告に基づいて評価等を行っていただいております。

また、この図の右側、総合アドバイザーとして野口さんに参画をいただいております。総合戦略の中で特に進めていくべきものにつきましては、リーディングプロジェクトとして、「里都まちなか魅力創生プロジェクト」を立ち上げております。このプロジェクトにつきましては、ブランド、スポーツ、プロモーション、魅力創生拠点整備ということで、四つプロジェクトがございまして、その中で、今年度につきましては、里都まち魅力創生拠点整備プロジェクトの担当課が産業振興課になってございます。これまでは企画課で推進しておりましたが、今年度からは産業振興課に移っておりますので、そこだけの変更点でございます。

それでは、続きまして、資料の 2 のほうをご覧ください。こちらは総合戦略事業の進捗状況でございます。総合戦略に掲げる目標の達成状況を示している表になっております。目標値につきましては、当初の戦略期間である平成 27 年度から平成 31 年度までのうちに達成することが目標のものになっております。実績値を把握するのに調査が必要なものにつきましては、実績値の欄が「-」となっております。この調査につきましては、来月から実施していく予定でございます。

初めに、この表の見方ですが、一番左が「指標」になっておりまして、左から順番に、基準値が戦略策定当初の「基準値」、また、平成 31 年度までに達成することが目標になっております「目標値」、「実績値」、また、その実績値、目標値に対する「達成度」、その「実績値の時点」、「備考」という形になっております。それでは、1 ページ目の『基本的戦略 1「里都まちブランド・里都まち「耕業」による地域経済活性化戦略』からご説明させていただきます。

基本目標につきましては、新規就農者数と新規起業者数が目標になっておりまして、新規就農者数につきましては、4 戸だったものを 10 戸にするといった目標で、実績としては 12 戸でございます。続いて、新規起業者数につきましては、0 社だったものを 5 社にするという目標で、15 社という実績が出ておりまして『◎』となっております。

続いて、プロジェクトのほうですが、一番上がブランド特産品認定品目数になっておりまして、こちらが 0 品目だったものを 10 品目という目標になりまして、実績としては 11 品目となっております『◎』となっております。こちらにつきましては、ブランド品を開発しようという事業者に対して、開発支援補助を行ったりですとか、また、専門家による研修会を開催したりしてきました。

続いて、ブランド販売施設、0 施設のものを 3 施設にするという目標に対して、実績としては、なかい里都まち CAFE の 1 施設となっております。達成度としては『○』となっております。こちらについては、ブランド品を町外のイベントで販売実証をしたりですとか、また企業との連携、ツアーの実施、ふるさと納税の返礼品に用いるなどして販路の拡大を図っているところでござい

ます。なお、直近で申し上げますと、先週 7 月 27 日の土曜日に、町内の企業さんのほうで社員の夏祭りイベントが開催されまして、その際にブランド品を出品させていただきました。

続いて、プロジェクトの新規就農者数と新規起業者数につきましては、基本目標と同じですので割愛させていただきます。

一番下の今後の方針ですが、新たなブランド特産品の開発に向けて事業者を支援しながら、なかい里都まち CAFE での販売に加え、他の方法による販売にも取り組みます。ふるさと納税の返礼品、地元企業と連携した取組み、町外イベントへの出品などにより、ブランド認証品の認知度向上と販路拡大を図っていきたいと考えております。

続いて、2 ページ目をお願いします。『基本的戦略 2「里都まちスポーツ・情報の駅による交流促進戦略」』でございます。基本目標として、交流人口。こちらは 15 万人だったものを 20 万人にするという目標がございまして、実績としては 200,082 人となり『◎』でございます。平成 29 年度につきましては 181,000 人強でございましたので、順調に増えているという状況です。転入者数につきましては 384 人だったものを 440 人にするという目標に対しまして、実績としては 313 人となっております『△』となっております。こちらは備考にもございまして、平成 28 年、29 年と徐々に転入者数が減ってきてしまっているというのが現状でございます。この転入者数をもう少し詳しく見てみますと、県内からの転入ではなく、県外からの転入の方が主に減っているというところが見えます。また、20 代の方ですね。その中でも特に女性の方の人口が減っているということが分かっております。また、直接、転入者数というところではございませんが、中井町の人口は約 9,400 人いるうちの 3 パーセントに当たる約 300 人が外国人の方になっておりまして、そのうちの 3 分の 2 の約 200 人がフィリピンの方という形になっております。そういった状況も加味しながら、次なる手を打っていく必要があると考えております。

続いて、プロジェクトになりますが、スポーツ関連イベント参加者数につきましては、年 750 人を年 1,500 人にするという目標に対して、実績としては 2,318 人ということで『◎』でございます。こちら平成 29 年度が 1,701 人ございましたので、順調に増えているというところです。続いて、未病センター利用者数が 0 人だったものを年 1,000 人にするという目標ですが、実績としては 390 人となり『△』となっております。こちらは平成 29 年度が 400 人でしたので、大体横ばいの状況でございます。スポーツ実施率につきましては、25 パーセントを 50 パーセントにするという目標でございまして、これは今年度調査が必要なのですけれども、これまでスポーツとしてはノルディックウォークを推進したりですとか、あと、総合型地域スポーツクラブの取組みを進めてまいりましたので、その効果が出ていけばというところで期待しております。続いて、Wi-Fi スポット設置数につきましては、0 か所だったものを 9 か所という目標でして、実績としては 3 か所となっております。Wi-Fi スポットにつきましては、役場と公民館となかい里都まち CAFE の 3 か所に設置をしております、大体、1 日平均利用者数が役場ですと 10 人強、公民館だと 2~3 人、なかい里都まち CAFE で 6 人ということで、徐々に設置当初よりは利用者数が増えてはいるのですけれども、数が十分かという、まだ課題があるかなというふうには考えております。続いて、情報コンテンツ閲覧回数につきましては、0 回だったものを累計 5 万回にするという目標で、実績としては 28,630 回で『○』としております。こちらについては、おおむね目標達成に向けて順調に推移していると考えております。最後のインターネット接続率につきましては、こちら 80 パーセントの目標ですが、調査を実施させていただきます。

最後の今後の方針になります。未病センター利用者数の増加に向けては、町内外への周知や保健福祉センター来訪者への声掛けなどにより、引き続き施設の認知度向上を図っていくとしております。補足ですが、体力測定会、運動教室、骨密度測定会といった事業で未病センターを活用して、年10回程度は事業で活用しております。また、未病センターのポスターを作製して、なかい里都まち CAFE に掲示したり、医療機関に掲示したりと PR を図っておりまして、加えて、自治会館で行う講座に未病センターの機具を持ち込んで施設の PR を図ったりですとか、また、県のほうの健康支援プログラムといった事業ともコラボをして連携をして、未病センターの普及促進を図っている状況でございますので、引き続き取り組んでまいりたいと思います。また、Wi-Fi スポットの設置につきましては、昨年度の利用状況より利用者が増加傾向にあるものの、設置が昨年6月及び7月でありまして、利用傾向の分析ができるほどの情報がまだございません。引き続き利用状況の確認を行っていき、集まった情報を分析して、今後の増設等の方針を決めていきたいと考えております。加えて、転入者数の増加が厳しい状況であります。人口課題を解決するためには転入者数の増加は重要な要素になります。本戦略のプロジェクトの推進だけではなく、総合戦略に掲げる全ての施策を推進し、連携して取り組んでいくことで転入者数の増加を目指していきたいと考えております。

続いて、3 ページ目をご覧ください。『基本的戦略3「里都まち子育て応援戦略」』です。基本目標としましては、出生数43人だったものを61人にするという目標ですが、実績としては36人となっており、達成度『△』でございます。備考にありますように、出生者数につきましては増えたり減ったりというのを繰り返しているような状況でございます。

続いて、プロジェクトの中の、こども園、保育園、幼稚園の園児の増加数につきましては、203人だったものをプラス3人ということで、園児数を206人にするという目標ではございますが、実績としては188人で、基準値よりもマイナス15人ということで『△』となっております。続いて、小中学校児童生徒の転校の減少数6人ということで、目標値はマイナス3人ということで、転校数を3人に抑えるという目標であるのですが、実際に転校者数が9人となっておりまして、基準値よりも3人転校者数が増えてしまったというところでございまして『△』でございます。次の出生数の増加数につきましては、43人だったものをプラス5人にするという目標で、つまり48人の出生数にするというものではございますが、実際には36人で、基準値マイナス7人ということで『△』でございます。この三つのプロジェクトにつきましては、小中学生の給食費の補助、また保育料の補助をすることによって達成をしていきたいといった目標になってございます。

続いて、4番目のネウボラ設置数につきましては、0か所だったものを1か所という目標で、実際に1か所設置しております。次の、ネウボラ利用者数につきましては、年800人の利用者数を目標にしておりまして、876人の利用者がございましたので『◎』でございます。こちらは平成29年度は778人ございましたので、順調に増えたというところでございます。子ども居場所づくりプログラム数につきましては、月4回だったものを月6回にするという目標で、実績としては月25回で『◎』でございます。次の多様な雇用形態実施企業数につきましては、1社にするという目標で5社でございますので『◎』です。続いて、三世代同居等推進事業助成件数につきましては、年3件というのが目標でございますが、平成30年度実績で3件となっており『◎』でございます。こちらは平成30年度から実施した事業ではございますが、今年度につきましては既に

1 件助成をしております、加えて 5 件ほど申請の見込みで相談を受けております。最後の里都まち暮らし応援隊員数につきましては、10 人の目標で現在 0 人で『△』となっております。こちらにつきましては、次の議題で説明をさせていただきます。

今後の方針につきましては、人口減少の抑制を目指す上で、出生数の増加は最も重要な要素と言えます。出生数の増加は、転入者数の増加と同様に非常に難しい課題でございます。特定の施策だけで状況を好転させることは困難なため、各施策の推進とともに、施策の連携による相乗効果を生むことで、出生数の増加を目指していきたいと考えております。また、中井町のファンづくりから応援者の育成、発掘を目指していきたいと考えております。

続きまして、4 ページ目をご覧ください。『基本的戦略 4「里都まち総合プロデュース戦略」』です。基本目標としましては、利便性が向上したと感じている町民、また、中井町を推奨している町民でございます。こちらはプロジェクトの一つ目、二つ目も同じ目標になっておりまして、今年度、調査を実施させていただきます。

プロジェクトの三つ目、取材件数につきましては、年に 12 件の目標に対して 32 件の実績でございますので『◎』となっております。地域の情報紙等に掲載していただけるように、町からも積極的に情報提供をしているところでございます。次の小さな拠点認定数につきましては、0 か所だったものを 2 か所にするという目標で、実績としては 0 か所で『△』となっておりますが、こちらにつきましても、次の議題で説明をさせていただきたいと考えております。最後のオンデマンドバス利用者数につきましては、年 5,633 人の利用者数であったものを平成 29 年度末時点で年 7,000 人にするという目標でございます。平成 29 年度につきましては、備考にありますとおり 8,466 人で、既に達成をしております、平成 30 年度につきましても 7,335 人ですので、7,000 人の目標につきましては達成をしているという状況でございます。

今後の方針につきましては、小さな拠点の認定数の関係になっておりますが、拠点は創出することがゴールではなく、誕生した拠点からどのような活動、魅力を生み出せるかが大事であり、町民や民間団体等のアイデアを生かしながら、中井町の魅力を実感できる拠点形成を図っていききたいと考えております。以上で、資料 1、資料 2 につきまして説明は終わりになります。

座長 ありがとうございます。では、資料 1、2 について、ご質問、ご意見等ありましたら、よろしくお願ひします。

委員 まず、新規事業者数 15。1 枚目の基本目標の所の数字なんですけど、これは素晴らしいと思うんですが、この内訳っていうのは何か分かる資料ありますか。あれば出していただきたい。どういう内容か出してもらえると。あと、農業者についてもですね。要するに、いろんなケースを私も見てるわけじゃないので、なんとも言えないんですけど、うまくいってる所もある。農協の新聞でしたっけ。ああいうのに出ていて、あるっていうのは承知してるんですけども、実態としてどうなのかなっていうのも具体的にちょっと知りたいなと思ひまして。これもこの場じゃなくて結構です。

座長 一応、分かる範囲であれば。

事務局 さっきの新規起業者数につきましては、例えば、なかい里都まち CAFE ですとか、あとブランド品の開発の中で誕生した企業さん、法人さんですとか、あとはなかい里都まち CAFE のほうでいろんな雑貨販売をさせていただいているのですけれども、その雑貨販売をされてる方というのが、基本的には今まで趣味の範囲で、やってもインターネットで販売したりとか、そういった方だったのですけれども、ちゃんとお店に出店をして商品を売ることになりましたので、そういった方々も含めてのこの数値になっております。

委員 主に里都まち CAFE 関連でよろしいですか。

事務局 そうですね。そこが大きな要素を占めています。

委員 大きな企業さんではないんですね。

事務局 そうですね。

委員 分かりました。あと、いいですか。2 ページ目、基本戦略 2 について、ちょっと伺いたいんですが。いいですか。

座長 どうぞ。

委員 交流人口で実績値 20 万人とありますけど、これはどう数えたのかということ。それから転入については書いてありますけど、転出はどうだったのかということ。それから、フィリピンの方 200 人ということなんですが、町のフィリピンの方に対する対応、言葉の問題とかあるじゃないですか。それはどんなふうになっているのかということ。その 3 点。簡単に教えていただきたい。

座長 お願いします。

事務局 最初の、交流人口の 20 万人のところのカウントなのですけれども、一番大きなところを占めているのが中央公園の利用者数になっています。それ以外に言いますと、スポーツイベントの参加者数でしたりとか、あと、ブランド品を出品したときのイベントの参加者数ですとか、あと、なかい里都まち CAFE の利用者数ですとか、そういったところになります。新たに総合戦略を推進していく中で生まれた交流人口の数も加えながら算出をしております。転出のほうは、すみません、ちょっと今、数値を持っていないので。転出ももちろん見てはいるのですけれども、今、具体的な数値は、申し訳ございません、お示しができない状況です。

座長 フィリピンのほうの対応はどうですか。

事務局 フィリピンの対応なんですけれども、例えば、税務町民課の窓口で翻訳機を用意したり

ですとか、そういったことで、当然、外国人が増えているということも十分認識しておりますので、外国人の方に向けた対応ですね。例えば、ごみのカレンダーにつきましても外国語版を用意したりですとか、そういった多文化が共生できるまちづくりというものを考えながら推進しているところがございます。

事務局 あと、小学校のほうにつきましても、ある程度人数が、児童数も多いことから加配を付けていただきまして、外国語の指導、言葉の教室というんですかね。そういったものも設けて対応をさせていただいているというところがございます。

座長 さっき、1 ページのほうの農業者の数についての説明がなかったんですけども。もし分かれば、新規就農の農業者のほう。

事務局 そうですね。新規就農につきましては、町のほうに 5 年間の補助制度みたいなものがありまして、その中で来ていただいた方が結構いらっしやいまして、町の空き家等も活用して、特に農家ですから、やっぱり庭先とかで農機具を置くような場所も必要だということで、町のほうで、農家の方でそういった施設を持ってる方にご紹介等させていただきながら、そういったものを使っただいて、今、町の方で一生懸命就農していただいているというようなところがございますので、そういう人をいろんな面で支援というか、応援はしていきたいというふうには考えております。

事務局 あと、よろしいですか。その関係で言いますと、あと農業体験ですとか、収穫体験、また、ふれあい農園といった農業ができる機会というものを提供して、興味のある方が実際に農業をしてみるということができるように、こちらでも取り組んでいまして、また、実際に農業をしている中で悩みがありましたら農業委員さんを紹介して、そこで悩み相談ができるような、そういった取組みというのも町のほうでやっております。以上です。

座長 他、いかがでしょうか。

委員 新規就農者が増えているのはいいことだと思うんですけど、これ、どこから来られたんですか。

座長 分かりますか。

事務局 町外の方です。県内型だと思うんですけど、具体的にちょっと今すみません。どこの市とかは、資料の持ち合わせがなくて申し訳ございません。県内の方がメインじゃなかったかなと。

委員 よろしいですか。せっかく来られた方なので、情報発信力を利用すれば中井町以外の。やっぱり中井ってどうですかっていうのを十分にヒアリングしてあげたほうがよろしいんじゃないか、ケアしてあげることが大事じゃないかなと思います。

事務局 その辺も町のほうでは、昨年度、PR 動画とか冊子等も作らせていただいているんですけど、その中で新規就農者の方の動画とか、そういったお声も入れさせていただきまして、情報発信もさせていただいております。また、県外へのプロモーション事業の中で、東京のほうに行ったときにも、そういう方にも一緒にそちらにご参加いただいて、中井町の良さを一緒に PR させていただいてるというようなことも、一緒に取組みをさせていただいているところでございます。

委員 私、二つぐらいのケースを知ってるんですけど、一つはちょっと地名は分かんないんですけど、山あいの畑に野菜を無農薬かなんかで作っている人です。30 歳ぐらいの女性ですかね。それで、順調というか、片手間にやってる感じはあるんですけど、どうにかやってるというか、楽しんでやってる人がいまして、あともう一つは、老人の施設があるその近所でやっている。これは茅ヶ崎の若い夫婦なんですけど、こちらは詳しく知らないんですけど、大変な状況で気の毒なような。これは先々大変だなという印象を持ちました。そういう人を見ていると、新規就農したはいいんだけど、経費も出して、ちゃんとやっていけるようなフォローとか、あるいは情報共有ですね。周りの人にもっといろいろ援助してもらえば、うまくいくところもあると思うので、手助けできるような形でやれるといいなと思うんです。数だけじゃないですからね。

座長 他の地域だと、こういう方たちのコミュニティーをつくるために、どこか集まる場所を作ってあげるとか、そういう支援をしてあげないと、結局、孤立したり。農業の指導っていう人もいますけど、その人は農業のことは一緒にやれるけど、それ以外のこと。

委員 生活の足が。

座長 そうです。そういうことに対応しないとね。だからやっぱり、他にもこういうカフェみたいなものができるといいでしょうし、せっかく来てくれる住民の方をちゃんと広報で外にアピールしていくとか、もうちょっと温かく受け入れてあげないと、結局、それぞれの人の頑張りだけで、頑張ってくださいよというのは、町としてはあまり好ましくないですよ。そういう所は、大体どンドン逃げていってしまうので、一番怖いのは、そういう人たちが、やっぱり駄目だよって言っちゃうとマイナスになるんですよ。だから、そういうことにならないようにするためには、この期間があったので、もうちょっとフォローしてあげたほうがいいし、例えば地域にそういう就農者の方の会議があるので来ていただいて、みんなで顔合わせして。悩んでる部分もあるでしょうし、良かったこともあるでしょうし、そういうものをちゃんと情報として出してあげるようにしてあげないとまずいんじゃないかと思うんです。例えば、作っているものを持ってきてもらって、それをどういう思いで作っているのかということ。

委員 新規就農者の方に対しては、町で多分、農業委員さんと役場と私と現場へ、畑に行って、いろいろ話をして、困ってること何かある、どういうサポートがあるかという話をしているのが年に 2 回あって、それとは別個に経営指導ということで、これは県からも来ていただいて、そちらは年に 2 回ぐらいやっているんですかね。新規就農者に対しては、町としてはかなり、よその地区よりも、ものすごく力を入れているとは思いますが。ただ、コミュニティーも、新規就農者の

方が全部で多分 52 人ぐらいかな、集まって 2 カ月に一遍ミーティングはやってられて、そこに町も、農協も、時折絡んでやっています。

ただ、その新規就農者も、実は大きく 2 通りあって、本当に有機農法、無農薬でやっていくんだという方と、農薬、肥料をしっかり使っていいものを作って、スーパーとかにしっかり売っていくんだという方と、ほぼ二極化してるのが現状なんですね。実際には、有機農法でやってる方、無農薬でやってる方っていうのは、なかなか販路が難しいというのが実は現状としてあります。農協のほうは少しでもバックアップできればとは思っているんですが、今、状況としてはそんな状況です。

座長 どうぞ。

委員 せっかくいい里都まちのブランド等を作られていて、就農者も増えてきているという中で、販路を拡大するのは課題だと思っております、今、ブランド販売拠点のほうで、里都まち CAFE のみということなんですけど、これからいろんな土地のことですとか、建物のこととか、いろいろ課題はあるとは思いますが、これからのご計画はあるのかどうか、それを確認したいと思うんです。

座長 どうですか。

事務局 今、おっしゃったように、ブランド品を開発させていただきまして、今、メインとして里都まち CAFE のほうで直接販売をさせていただいています。なかなか次の販路という形ではちょっと今、具体的な場所という形ではないんですけど、贈答品というような形で、中井町からどこかに行くときにお土産に使っていただいたり、あとは担当課のほうでも、横浜とか、そちらのほうにも出向いて、中井町のブランドのこういった PR とかもさせていただいて、逆に、中井町にツアーみたいなので来ていただいた方にも積極的にご紹介させていただいてるというような中でもやってございます。本当に今、おっしゃったとおり販路というのが一番課題にはなってくるということですので、引き続き今年も、そういったブランドプロジェクトというのを推進しておりますので、その中で、その辺のさらなる販路の開発については検討していく必要が、もちろんあるかと思っておりますので、ちょっと今、具体的に、その辺の新たな販売場所という形では目に見えていないのが現状でございます。

座長 話を聞けば、すごくよく分かるんですけど、販路がないというのを、出してあげられる場所のために里都まち CAFE を造っているわけで、この里都まち CAFE のコーナーを造ってあげるべきなんです。農産品もそういうブランドの一つだという認識でやるべきだし、農業者の姿をきちっと、里都まち農業クラブとかってネーミングしてやって、コミュニティーの存在みたいなものをつくってあげないと、いなくなっちゃうんですよ。おっしゃるとおり、農業に対する技術とか、そういう点ではサポートされていても、やはり楽しく中井町で暮らしていけるかどうか。移住してきて、もっと、ちゃんと友達も呼ぼうかというようなきっかけを作っていくためには、やはりそういうことをやっていかないと駄目で、本来、里都まち CAFE っていうのはそのために

あると思うんだけど、中井町はどうしても、農協さんもそうだけど、そういうコーナーを造ってあげればいいと思うけど、農協さんの販売のコーナーだって、そういうものがないわけですよ。クラブのような販売をするときの基準があって、農薬をちゃんと散布している保証がとかっていうのをチェックしないとうちでは売れないというのは分かるんですけど、そういうことをやっていけない限り、そういう人たちはほとんど行き詰まって、大体は出て行っちゃうんです。そこにどうやって、今までのそういうことではないものができるかどうか。この総合戦略っていうのは、今まで考えていることじゃない発想でできないかっていうことなんですよ。

野菜を売る場所が少ないっていうのは、すごくおかしいし、ブランドについてもそうなんですけど、CAFE だけしかないというのはおかしくて、インターチェンジの所にも中井さんは販売コーナーを持っているんですね。あそこで野菜を売っていると思うんだけど、あそこにそういうものがないっていうのもおかしいし、ブランド品も売ってないんですよ。

それから、それぞれ地元でも、青年の方たちも販売店持ってるはずなんですけど、そこにコーナーを看板出してあげたっていいわけです。町中に里都まち CAFE の商品を売っている場所が幾つもあるよ。そういう戦略をやらない限り拠点数は増えないんですよ。だって、新たに何か建物を造って、そこが拠点ですって言い方はおかしいんですね。やっぱり既存のお店にコーナーを造っていただく。またはコンビニエンスに地元の野菜のコーナーを造ってもらおうとか。郵便局だって野菜を売っている所はあります。小田原だと本屋さんが店の前で野菜を売っているんですよ。

だから、そういうことをやっていくことなんですよ。そのつなぎを誰かがやらなきゃいけないんだけど、そのエンジンがないんですよ。多分エンジンになるのが、後ろほうの 0 人だった里都まち暮らし応援隊員というのは、本来はそういうことを仕掛けていく人になるはずなんですけど、これは、誰が認めて、どういう制度になるのか、よく分からないんですけど、結局、その制度そのものがないってことですね。広報して募集すれば応募が来るかもしれないんだけど、それをやらない限り増えないし、そののところにつないでやるっていう仕組みをやらないと、この数値はほとんど、今マイナスのところは、今後も多分いかないと思うんですね。

それから、質問したいのは小さな拠点。これも 0 か所なんですけど、これは一体どういう基準で選んでいるのか。Lei の拠点が 1 個できているのに、それがなんでこれに入らないのか。

委員 そうなんです。うちもブランド品をぜひうちのほうで取り扱いして、お弁当とかをお母さんたちが作ってもらって販売してるので、そこで使いたって声を何度も上げているんですけど、なかなか届いてないのが現状です。今、商工会さんが商品を管理している状況で、行きたければそっちの CAFE のほうに直接販売したいと言いに行つてという感じなので、もっと私たちの商品を買やすくしていただければ、お弁当の中に取り込んだり、実際、食堂もやっているの、そこで販売とか、実際に食べていただける場をつくってって、そこで管理ができるんじゃないかなと思ってる次第でございます。

それが一つと、ちょっと子育て世代のほうから聞き出したんですけど、農家さんのほうからお話があったんですけど、実は子育てがしにくい町じゃないかと言われていて、保育園が土日やられていないということで、この夏の暑い時期、子どもを畑に日曜日に連れて行かなきゃいけない。かといって、私たちが預かってもいいよって言って、エアコンの効いてるような預かれる施設がないのが現状です。

都内のほうだと児童館が開設してあったりとか、そういった避暑地に皆さん集まるんですけど、なかなかそういう場所がない。井ノ口の方に児童館が今、あるんですけど、そこは自治会さんが管理されていて、私たちみたいなのが使うときにも、必ず自治会長さんにごあいさつをして鍵をお借りしていかなきゃいけないというのが現状だったり、すぐその裏手に住んでる方がちょっと問題がある方で、なかなか安全性が図れないというのもあるので、子どもが安心して安全にいられる場所づくりを私たちもしたいと願っているんですけど、何せ私たちの拠点も古民家を活用しているわけで、エアコンがない場所になっているので、子どもたちを長時間そこに預かるというのはちょっと厳しいと思っています。

私たちのNPOのほうも、今、ベビーシッターの法人契約を定款に取り込みまして、12月からNPOのほうでも託児をすることができるんですけど、託児できる場所が今ないというのが現状でして、農家さんは特にそういう声を上げていらっしゃるの、保育園のほうももうちょっと何とかできるようにしたらいいかなというのと、あと他市に比べて保育料がすごく高くて、第3子、第4子でも保育料がきちっと発生してきてしまうので、うちのケースで言えば、4人子どもがいるのに、3番目、4番目で75,000円、毎月保育料をお支払いしているような状況なので、今後、第3子、第4子には保育料が半額になるとか、なしになるとか、そういったことも制度として取り組んでいったら、もうちょっと子育てしやすい町っていうPRができるのかなと。小さい町だからこそできるケアを今後していただきたいと思うのが、子育て世代の意見です。

座長 今、こっちから出たと思うんですけど、保育料って今度、無償化するんじゃないですか。

委員 3歳からになる。

座長 全員無償化でしょう。

委員 0、1、2歳に関しては、所得が非課税の世帯のみが無料。課税世帯は有料でそのままになっています。

座長 どうですか。

事務局 ここで今すぐというわけにもいきません。お話としては、委員のほうからご意見いただきましたので、しっかりやらせていただきたいと思います。

座長 幾つか課題が出ていると思うんだけど、そういうのって、この会議では年に何回しか開かれないので、この総合戦略というのは、役所の担当者がやっていくんですか。

事務局 こういった会議につきましては企画課のほうで担当しておりますけど、個々の案件、ご意見等につきましては担当課のほうに伝えさせていただいて、その中で検討していくというような体制にはなっています。

座長 この応援隊の仕組みって、どこが担当なんですか。

事務局 応援隊につきましては、この後、資料 3 でご説明をさせていただきたいと思っております。

座長 平塚でカフェを造ったんですけど、実はクラウドファンディング 300 万取って、空調付いたり、1 階のトイレをバリアフリーにしたりしたんですね。最終的には 500 万ちょっとぐらいの。行政がやってくれないなら、クラウドファンディングでそういうのを求めたほうが今は速い。

委員 もう一つ。ここの中の話とは、また別件になってしまうんですけど、ちょうど去年お話ししたと思うんですけど、美・緑なかいフェスティバルの件なんですけど、去年、座長が町民をもっと取り込んでやっていこうってお話だったんですけど、今年度も全く去年と同じような開催状況で、ちょっとこれはどうなのかなと思って、ご意見をちょっとお聞きしたいので。

座長 どういうふうで開催してるんですか。春ですか。

委員 いや。秋ですね。去年は、一つの団体さんに声掛けてマルシェを開催したっていう現状があるんですけど、今年度も全く同じ開催の手法で、私たちが取り込むすべもなく。

座長 どこが主催してるんですか。

委員 産業振興課。

座長 どうですか。産業振興課が関わったそうですが。

委員 きょうはいらっしゃらない。後でご意見聞いていただければ。

座長 どうですか。

事務局 去年、この席で委員がおっしゃったご意見というか、お話が出たことは承知しております。そのとき担当課のほうも出席はさせていただいたというふうに思っておりますので、それをもってフェスティバルの関係かなというふうに思います。実行委員会の中の組織体制の中で毎年の運営形態というのを決めてるというふうに思っておりますので、その中でその辺のご意見を含めた中で、どういった経緯を含めて今回なったかという、細かい所はちょっと承知しておりませんので、そこにつきましては、担当の産業振興課のほうと内容は確認させていただきたいというふうに思っています。

委員 私どもの会社として、最近、女性の割合が格段に上がりつつあって、7割が女性で、必ずどなたかが産休でお休みされているぐらいなんです。実は、お子さんを育てる環境っていうのは

結構ニーズが高くて、あそこの事業所単体で何かを立ち上げるのは極めて難しいし、余裕もないです。ひょっとしたら、町の機関とタイアップして何かできるんじゃないかというふうなところは考える余地があると思いますから、何か具体的なところがあつたら、ぜひ一緒に相談させてもらって進めることが可能かと思います。極端な話、エアコンは取り付けますと、その代わりみたいな話もあろうかと思いますが、なかなか中井にお子さんを預けたくても、住民の方優先なので断られましたみたいなケースをたまに見ると思うんですが、お母さんとしては、会社の近くにお連れしたほうがより安心というご家庭もありますので、そんなところで、いろいろやりようがあるんじゃないかなと思っています。

委員 企業主体型保育園というのがあって、そういうのを私たちは NPO なので立ち上げられないんですけど、運営は私どもがやって、企業さんがそういう申請をやっていただき、場所を貸していただくという成果を出されている自治体もあって、今後、よろしければ、また一緒にご相談とか。

委員 そうですね。何ができるかっていうのは、なかなか確約できる話じゃないんですけども、ニーズは格段に高まっております。

座長 町中に、さっきの農業の問題もそうだし、新しく参入している人とか、若い人たちがいると思うんですけど、そういう人たちが集まれるというか、そういう町も含めて情報を共有できるような場所をつくったほうがいいと思うんですね。行政にやれと言っても、なかなか行政もできないので、逆に言うと NPO とか市民の方たちでそういう会を立ち上げるというのも一つだと思うんですね。行政というのは限界が来てるので、自助、共助、公助の順番にやっていって、まず自助なんです。その次に共助があって、要するに、お互いに持つ課題を持ち寄って、どういふ解決方法をしようか、そういう解決をする NPO も結構あるんですね。だから、やっぱり全部行政に持ち込んだら解決できるかという、解決できないんですよ。そういう場所を中井町においてもそうだし、ぜひ。そういうのを声掛けてやったらどうかな。さっきの人口の転出の中で、10代の女性が出て行っちゃうという、一番ショッキングな話のはずなので、そういう人たちがいないってことは魅力的な場所ではないということなんです。別に都会のようにならなくてもいいと思うんですが、田舎だけどいいねという場所がないということですね。そういう意味では、そういう場所を増やす必要があると思うので、若い人たちの声をもっと聞けるような場所を作ったほうが、多分、会社の中で皆さん働いている中で、若い人もいっぱいいらっしゃると思います。そういう声をどうやって集めて、どうやってやっていくかというのが大事で。多分この後、行政のほうがアンケート調査をやるでしょうけど、ほとんど頼りにならないんですよ。そういう意味では、皆さんが集まって出していく。

私が今、顧問をやっている全国組織な子育ての組織がありますけど、彼女たちは、お母さんたちが集まるイベントをして、そこでアンケートを採っていったるんですね。そういう人たちの意見とかが生きてきて、そこに企業が来てくれて、企業も調査会社のデータよりは、生のお母さんたちのその場でのご意見を集めたほうが、よっぽど商品開発に生きるということなんです。世の中の実態を把握する方法が今までと変わってきてるので、逆に言えば、それを皆さんが提供で

きるような情報を出してあげれば、企業のほうから来るんですね。その活動の主体は企業さんが全部支援してくれているんですけど、その見返りが何かというと、お母さんたちの困った話とか、パンパースなんかのおしめなんかを新しく開発すると、お母さんたちに使ってもらって、意見をもらって、それを今度は商品開発に生かしていくとかという。大量にあるわけですよ、子育てしている方たちって、そういうのを企業さんは情報が欲しくてしょうがないんです。そういうことをやっていく必要があるんじゃないかな。それをきっかけにやっていくこともできるし。

それから、新規農業者の方も、新しい目でこの地域の農業の可能性みたいなものにチャレンジしてくれているんですね。自己責任でやってくれているわけですよ。それって、今までずっと農業をやっている方たちはそれなりに安定しているんだけど、新しい目で見るときに、この地域の可能性というものを一つずつ発見してくれているのかもしれないです。そういうのをもうちょっと出していく機会をつくれるといいなと思います。

プロモーションプロジェクトってあるじゃないですか。ここをやるときはそういうことなんです。分かり切ったことをプロモーションするんじゃなくて、新しい可能性を新しい世代が発見していくところを外に出していく。そういう情報の出し方をしたほうが周りからは注目される。こんな若い人が、こんな所で農業をやって、こんなものを作って、こんなことを発見してる。困っていることもそうなんですけど、それでもしかすると中井の魅力が出てくる可能性があるんですね。

彼らの世代だと、インターネットの情報集めもすごい速いので、そっちから拡散するということも出てくると思います。そういう運動をしていくしかないかなと、一つはね。行政に投げても、1年たっても答えが来ないってことは多いので、自分たちが子育てしてるのに待ってられないじゃないですか。子どもは1年で育つわけですから、今、全国的に動いているお母さんたちって、そういうニーズが、自分たちの子どもたちが子どもである時代に解決していこうと。10年先に解決されても自分の子どもには何も得られないじゃないですか。それじゃ、小さくてもいいから作ろうという動きが始まっていると思うので、そういうのが加えられるといいかなと思うので、期待したいと思います。

他、いかがでしょうか。じゃ、また後でご意見いただくということで、先に進めたいと思います。では、カッコ2ですね。『改訂版総合戦略の策定について』説明をお願いいたします。

(2) 改訂版総合戦略の策定について

事務局 それでは、資料の3-1と3-2に基づきまして説明をさせていただきます。3-1のほう、『改訂版総合戦略(案)』になっておりまして、今回、改訂するポイントにつきましては、赤字で見え消しになっております。また一方で、資料3-2のほうにつきましては、新旧対照表のような形で、どこの部分がどのように前後変わっているかというところを示しておりますので、3-2も照らし合わせながらご覧いただければと思います。

それでは、資料3-1に基づきまして説明をさせていただきます。まず、改訂のポイント一つ目としましては、初めの表紙ですが、『平成28年3月』となっている所にカッコで、『令和〇年〇月改訂』と入れさせていただきます。その後、下のほうにページが書いてありますので、そのページ番号に沿って説明をさせていただきます。

1 ページ目、ご覧ください。この上のほうの3段目のなお書きの所です。『なお、総合戦略は、同時期に策定する第六次中井町総合計画と整合を図るものとしています』という所を時点修正するという目的で、『総合戦略は、同時期に策定した第六次中井町総合計画と整合を図っています』というふうにしております。

続いて、3ページをご覧ください。真ん中少し上ですが、①の対象期間の所です。『総合戦略の対象期間は、平成27年度から平成31年度の5カ年とします』となっておりますが、『平成27年度から令和2年度の6カ年とします』ということで、ここは総合戦略を1年間延長するというに伴った対象期間の延長でございます。

続いて4ページ。ピンク色の『基本的戦略3 里都まち子育て応援戦略』の一番右下の施策です。『里都まち暮らし応援隊事業』を『里都まち暮らし応援事業』というふうに変更したいと考えております。ここの理由につきましては、後ほど説明をさせていただきます。

続いて、5ページをご覧ください。5ページの①基本目標の中の数値目標、真ん中の目標値の所が『H31』となっております。これは平成31年度までに達成する目標ということで『H31』となっておりまして、対象期間を延長するということで、令和2年度までになりますので『R2』に変更しております。これは、これ以降につきましても、同じように変更を考えております。

続きまして、6ページをご覧ください。プロジェクト1『里都まちブランドプロジェクト』の二つ目の施策、『里都まちブランド流通マーケティング事業』につきまして、『里都まちブランドの町内社員食堂での提供、農産物直売所などでの販売などを皮切りに』となっておりますが、これを『里都まちブランドの、なかい里都まちCAFEなどでの販売を皮切りに』というふうに変更したいと考えてございます。この理由につきましては、町内社員食堂ですとか、農産物直売所での販売というのが現状できておりませんでして、その代わりとして、なかい里都まちCAFEでの販売を中心に展開させていただいており、それを皮切りに販路拡大を図ってございますので、現状に即した形に変更するというので、このとおり直しております。

続いて、7ページをご覧ください。こちらは先ほどと同様に、基本目標の数値の所、『H31』を『R2』に変更しております。

続いて、8ページでございます。プロジェクト1『里都まちスポーツ・プチツーリズムプロジェクト』の二つ目のポツの所で、『未病を治す』とありましたのを『未病を改善する』に変更したいと考えております。また、その下の『具体的な政策』の二つ目、『里都まちスポーツ・プチツーリ

ズム事業』につきましても、『未病を治す』という表現をしておりましたが、これは『未病を改善する』というのに変更したいと考えております。こちらについては、未病を治すというのではなく、未病を改善するというふうに一般的に使っておりますので、表現の修正ということで変更したいと考えております。

続いて、8 ページの一番下の『里都まちスポーツのまち事業』の所の『重要業績評価指標』の所ですが、『スポーツ実施率 実施率 50%』となっておりますが、こちらを『スポーツ実施率 週 1 回以上の実施率 50%』ということで、『週 1 回以上の』というのを加えたいと考えております。こちらにつきましては、スポーツ実施率といっても、どのくらいの頻度でスポーツを実施している方が実施率に含まれるのかというところが見える化されておりましたので、そこを見える化するために、『週 1 回以上の』というのを加えております。

続いて 10 ページをご覧ください。こちらも同様に、目標値の所の『H31』を『R2』に変更しております。

続いて、12 ページでございます。12 ページの一番下の施策で、『里都まち暮らし応援隊事業』『里都まち暮らし応援隊員数 隊員数 10 人』というのが施策の内容と指標でございましたが、ここを『里都まち暮らし応援隊』としまして、重要業績評価指標につきましては、『里都まち暮らし応援者数』で『応援者数 10 人』というふうにしたいと考えております。この理由としましては、応援隊ということで、隊が組織されていなければ実績としてカウントできないようになっておりますが、実際には、なかい里都まち CAFE のスタッフが町の魅力情報を発信してくれたりですとか、また、町内の団体さん、町民の方も含めて、そういった方々が町の魅力を発信してくれています。町のプロモーション動画や冊子に出演していただいて、町外にいても中井町の良さを実感できるコンテンツづくりに協力してくれている町民も発掘を得ている状況です。隊と言える組織づくりを必須にするのではなくて、そういった人材が実際には出てきておりますので、そのような方々を実績としてカウントしていくことも可能になると考えておりますので、このように変更したいと考えております。

続いて、13 ページです。13 ページは同様に、『H31』を『R2』に変更するものでございます。

続いて、14 ページです。14 ページの下のプロジェクト 2『里都まちコンパクトプロジェクト』の中の上の施策で、『中心拠点・小さな拠点形成事業』になりますが、こちらの重要業績評価指標『小さな拠点認定数 2 か所』となっていたものを『小さな拠点形成数 2 か所』というふうに変更したいと考えております。こちらの理由としましては、小さな拠点と町のほうで考えられるものとして、中央公園に誕生した里都まち交流拠点、また、空き家を活用した『れいんち』、そういった拠点も形成していただいております。ただ、ここで認定数ということで指標がありますので、認定の制度というところがないと認定された施設としてカウントできないというのが現状でしたので、そこを『形成数』というふうに変えることによって、実際に誕生している拠点をカウントしていけるのではないかと考えております。

そして、最後に裏表紙になりますが、『平成 28 年 (2016 年) 3 月発行』となっている所の下に、『令和〇年 (〇〇〇〇年) 〇月改訂版発行』というふうに入れていきたいと考えております。

ここで資料 3-2 のほうの 3 ページ目をご覧ください。3 ページの真ん中から下にかけて、今回の改訂に関する考え方で、補足 1、補足 2 というのを書いております。まず、補足 1 としまして、総合戦略改訂に関する基本的な考え方ですが、改訂の一番の目的は、戦略期間を延長することで

あります。その他、必要に応じて改訂を行うものでありまして、大幅な改訂は考えていないというのが基本的な考えでございます。

また、補足2ですが、目標値を上方修正または下方修正しない理由でございます。資料2の『総合戦略事業進捗状況』のとおり、実績値が目標値を既に達成しているもの、達成に向けて順調なもの、達成が厳しいものとそれぞれございますが、その中で実績値が目標値を既に達成しているものについては、目標値を上方修正するという考え方もございますが、上方修正は行わず、当初設定した目標値をさらにどれだけ上回れるかを目指して、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

また、目標値の達成が厳しいものにつきましては、目標値を下方修正することはせずに、目標値達成に向けて引き続き取り組んでいきたいと考えております。その理由ですが、実績値に合うように目標値を上下させたりするのではなくて、目標値と実績値にどれだけ差が生じるのかという点を一つの基準として、当該事業が効果的であったのか、戦略の作り方を含めてどのような点に課題があったのかを顕在化させて、次期の総合戦略に反映させていきたいという考えから、今回の目標値は上方修正、下方修正をしないという形で考えております。それでは、資料の説明は以上になります。

座長 では、ご質問、ご意見、よろしく申し上げます。

委員 PRも含めてのお話で恐縮なんですけど、このような活動とか、中井町さんの教育委員会のお力添えもいただいて、私どものほうで、『ジュニアメディカルチャレンジ』ということで、中井町の小中学生、それから、今年は二宮とか秦野も広げて、言ってみれば、医療体験とは言わないんですけども、ちょっと遊びに来てねという格好で、ちょうど今週の土曜日にまた開くことになりました。ライバルが東海大さんとでんじろう先生なものですから、それに負けるなということで。これは多分継続して、これからも実施していく取組みになってますので、こちらの活動に直接連携しないかもしれないですけど、一つの取組みとしてご紹介させていただきます。

座長 どうでしょうか。

委員 さっきの『里都まち暮らし応援隊事業』ですけども、隊という名称になっていたから、目標値がなかなか達成できなかったということで、今回、見直して『応援事業』という名称にすることによって、この目標値というのは、今後、達成見込みはどんなふうになっていくんでしょうか。

座長 事務局、お願いします。

事務局 この10人という目標につきましては、おおむね達成できるという見込みでありまして、具体的に今、この方というのはありませんが、こういった方が対象になってくるかなというのはございます。

委員 イメージとしては、応援して下さる方々はいっぱいいたけれども、隊というグループになっていなかったから、今までカウントができなかっただけで、そういった方々がおいでなさるということで。

事務局 そうですね。取組みの中で発掘できているということでございます。

委員 この応援隊についてなんですが、どうやって把握してるのですか。役場にこういうのをやりたいという話があるのか。どうやって把握するのですか、10人というのは。

事務局 町のほうが受け身というよりは、実際にいろんな活動を町内でやっていただいていますので、そういった方とコミュニケーションを取っていく中で、この方がこういった町の情報発信をしてくれているなというのが日々の活動の中で分かりますし、プロモーション冊子の話もさせていただきましたが、その冊子ですとか、動画を作る際にも、町内をインタビューさせていただいて、町の魅力を発信してくれる新たな町民の方というのも発掘できていますので、そういった方をカウントしていきたいというふうに考えております。

委員 話はちょっと変わるんですけど、アピールするっていうのは、これは出身者に対してアピールするという意味ですね、中井町の。

事務局 そうですね。ここの事業の趣旨としては。

委員 思うんですけど、この近辺でリタイアした人っていうのは暇を結構持て余しているんですね。農業をやってみたいと、そういう人が結構いるはずで、具体的にも会って話を聞いたりします。ところが、そういうものと繋ぐ、あるいは、中井町がどんな所かもあまりよく分かってないっていう人が恐らくほとんどで、何がある、蓮池ちょっと知ってるかなみたいな、その程度の認識しかないんですよ。だから、その辺が非常にもったいない、ミスマッチがあるもので、その辺を何とか繋げられるような、内向きの繋がりだけじゃなくてね。そういう手立てっていうのを考える必要があると思うんですね。私がそこで応援者になって、実はこうこうで空き地もあるし、荒廃地が増えるから、農業体験できますよって話はできるんだけど、責任持てできないんですよ。ただ、そういう地所を紹介してるだけで。だけど、隠れたニーズはあるようなんです。そのマッチングができれば。だから、何も中井の出身者だけに声掛けるんでなくて。大体、出てった人に声掛けて来てもらうというのは相当大変な話なので、周りにいる近隣の人で、興味や関心や暇を持て余している人がいるわけで、そういう人たちにアピールできる手だてがあるといいかなと思いますね。

事務局 今、取りあえず地所をお話いただけるだけでも本当にPRに繋がると思いますし、また、次の総合戦略、この次の国のほうの考えている関係人口というようなこともありまして、中井町だけではなくて、そういった町外からの方が中井町についてPRしていただけるような、そういったことも求められてきてますので、町民一人一人の町をPRしていくということの醸成という

のは本当に大事なかなというふうに思いますので、それが大掛かりなものでもなくても、そういった形で何とか発信を進める場というのは、町としても頑張っていきたいというふうに思っております。

座長 どうぞ。

委員 小さな拠点の形成数の修正をされるということで、認定になれば、ちゃんと認定の規約ができて、それに沿ったような拠点づくりをしようと思うんですけど、ただ形成数になってしまうと、ただ作ればいいじゃないですけど、数字的なものだけになってきてしまうんじゃないかなって思ってしまったんですけど。

座長 どうですか。

事務局 もともと内容が暮らし応援隊というような形ですけど、先ほども担当が言いましたように、実際、求めているところは、皆さんが取り組んでいただいているような人を町を応援していただく人を増やしていきたいというような思いがございますので、そこは正式とした認定隊とするのか、そうじゃなくても、そういった堅い枠組みではなくて、先ほども言いましたように、個人であってもそういうのを応援しているようなところから、まずは進めていきたいというような思いもございますので、数字ありきというわけではないんですけど、町としても、町に関わっているんな PR していただいているような、そういった町を応援していただいている人を少しでも多く、今、やっている現状をある意味ではしっかりこの中に位置付けをさせていただきたいというような思いがございましたので、今回は数字を増やすためにというようなことではなくて、実際に拾い上げていきたいというような気持ちがありましたので、そこをちょっとご理解いただければありがたいというふうに思っております。

委員 小さな拠点のほうでは。

事務局 そちらについては、実際に先ほど申し上げたとおり『里都まち交流拠点』ができたりとか、『れいんち』ができたりとか、そういうのがありつつも、どうしても認定というところが認定制度がなくてというところで、実績に含められないという歯がゆさもありつつ、今回このような修正を考えたのですけれども、言われるように、認定というのは、そういった正式なものがあることによって生じるメリットというのものもあるのかもしれませんが、その辺は国の小さな拠点の制度ですとか、他の自治体が行っている制度というのがあると思いますので、それは別で検証しながら、そういったものが有益であれば取り入れていくというのもありかなとは思っております。

委員 ありがとうございます。

座長 今の二つの点はすごく大事で。小さな拠点という言葉そのものは国が指定していて、その

制度はちゃんとしているんです。この計画で入れた小さな拠点というのは、それを作りましょうという話だけではないと思うんですね。普通は、国交省の基準に乗ったものは小さな拠点と社会のほうから認識されるので、それに準ずるものは準ずるものとしての認定をしていけばいいんだと思うので、そういう位置付けはきちっとしたほうがいいかもしれませんね。そうしないと、今の説明はすごくあいまいで、それを広報で説明しても誰も伝わらないですよ。軒先で直売したって、認めないといけない文章になっているけど、そういう人たちが出てくるかもしれないですよ。ただ、それは小さな拠点の準備版ですので、そういう下のランクだけ認めていくというようなことを決めたほうが増えていくと思うんですね。そういうことをやっていただくことをやるために、この施策をやっているんで、なんか行政ができないんで、きちっと制度に乗ったものだけ認めるって話をやっていくと、この趣旨が変わっちゃうと思うので、その辺の言葉はどちらでもいいんですけど、認めていく活動とか、そういうのをちゃんと認識して増やしていかないと意味がないと思うんです。

それから、もう一つの応援隊の話もそうだけど、先ほど、何でも中井町のことを外に発信すりゃいいんじゃないか。じゃ、この上に書いてある文章は何のためなんですかって。このプロジェクト 2 の位置付けは、もっと大きく言えば、『里都まち子育て応援戦略』の中に入っているわけです。そのためにやる応援隊なんですよ。中井にはこんないいもんがあるからという宣伝をする人もこの中に含めるというのはおかしい。戦略的には子育てですよ。子どもが生まれてくるとか、そういうための暮らしの応援隊じゃなきゃいけないと思うんですよ。だから、勝手に企画が判断して広くやるという方針になってますね。上の U ターンとかそういうのは、ただ帰ってくるんじゃないで、子育てして人口が増えるというためにやることなんですよ。そういうことを知らないで情報発信しても、この中には入らないんですよ。そういう認識をちゃんとしないと、この計画そのものが全然意味がないじゃないですか。単なる情報発信だったら、この項目に入れるべきじゃないですよ。この項目は『里都まち子育て応援戦略』、応援隊は『里都まち子育て応援隊』なんですよ。そういう人を認めていかなきゃいけないんですよ。だから、CAFE で商品売ってる人を応援しろと言ってるんじゃないんですよ、この応援隊の意味は。

事務局 ちょっとあまりにもアバウトな説明をし過ぎて申し訳なかったです。その辺は、例えば学生の中で、中井町のプロモーション事業の中で積極的に参加していただいた学生さんとかいらっしゃるので、そういう人たちが自分の同級生たちを集めて同窓会のようなものを計画したりとか、一回、学生で外に出ちゃって、また中井町に戻ってくるというか、地域で中井町の良さ、中井町の中で活動していただいと。そういった取組みというか、動きをされているような方もいらっしゃいますので、そういう人も含めて、この応援者というようなイメージでご説明をさせていただきたかったですけど、あまりにも、ただの PR というような表現をしてしまったことについては申し訳なかったというふうに思っております。

座長 それにしても、その子をどうやって認定するのかってことなんですよ。その人が応援隊だっていう。応援隊の 10 人の 1 人ですってというのは、どういう基準なのかが分かんないですよ。町でこの人を推薦してくださいと市民の人が言いたいとしても、基準が分からないから言えないし、私やってみたいと思っても、どういう仕方があるとか、何をすればいいんですかが見え

ないから、こういう人が増えないんですよ。勝手に町のほうで、この人はいいやと人数に数えるっていう、それはおかしいと思うんですよ。そうじゃなくて、こういう思いでやってくれる人を増やすということなんですよ。ちょっとこれは、きちんとこういうものを出していただきたい。それをあいまいにしていると良くない。

例えば、下田なんかは、住民の人が同窓会を誘致すると商品券をもらえるんですね。町の中で使える、いわゆる下田に非常に観光に来る人が少ないので、同級生とか大学の同期生が同窓会を下田でやって、そういう人を旅館に紹介すると、1人当たり商品券を何枚かくれるんですよ。それは下田の商店街でしか使えないので、その場で循環するわけですね。外から人を呼んでくるということをやってくれる人に対して、そういう形で金銭とか与えていって、旅館もそういう仕組みをやっているわけですけど、そのぐらいやってもいいんですね。

柏でもやったんですけど、廃校した小学校で同窓会を開いてやったんですね。これ、すごく効果があるんですよ。廃校したとしても30年、40年の歴史で、出ている子どもたちがいっぱいいて、小学校が廃校になっても交流施設で残っているの、そこに来て、校長室に全部、同窓会の写真から何から残しておいて、宴会は町場のレストランやホテルでやるんですけど、まず集まるのは小学校のそういう施設に集まって、みんなでまず懐かしむというか、そういうことをしてからこっちに。でも最近では、そこにカフェができて、そのカフェが結構頑張っていて、少しお酒も出しますみたいな形で、地元の住民が経営しているんですけど、そういうことをやったりし始めているんですね。そういうことで、そこに昔、暮らしている人が戻って来てくれて、そういう機会をつくっているんですけど。

そういう意味のことなんですよ。だから、そういう活動をやったほうが本当は良くて、同窓会を中井のあのCAFEでやってもらおうというのを仕掛けていけば、かなりの人数。役所の人は全部同級生のはずですから、町長も含めて同窓会を全部CAFEでやれれば、相当の回数、実はできるんですよ。

これ、縁って言います。縁戦略と言って、要するに地元出身者の人に看板貸してもらって交流していただくと、そのときに、今、中井町ではこんなことをやってるよということを伝える、そういう機会にするということです。全く中井を知らない人に来てくださいと言っても来ないけど、出身で、今、東京に住んでるけど、たまの同窓会なら行ってみようかっていう人たちっていますよ。そういう人に、もう一度中井のことを認識してもらおうというのは、結構、他の人よりはるかに中井のファンになってくださる可能性が高いので。これはかなり日本人って義理堅いので、すごくうまくいきます。

博覧会を地方で、鳥取博っていうのがありますけど、鳥取県って60万人ぐらいしかいないんですよ。そして、同窓会とかそういうのを全部その年のその期間に、全部鳥取でやるっていうのをやってもらったんです。そしたら300万人です集客が。人口の3倍以上の人が、鳥取以外も来ますけど。そういう戦略って、日本の場合、すごく効くんですよ。そういうことで中井に来てもらうとかは、情報を発信するっていう意味だと思うんですね。不特定多数の人に一方的に情報を出すってことだけが情報発信だと思わないほうがいい。ディズニーランドも1,000万人来てますけど、固定したお客さんは300万人なんですよ。ということは年間3回も来るんですよ。だから1,000万なんですよ。別に1,000万人全部、顔が違わないんですよ。あんなの行っても同じものじゃないですか。でも、遠山の金さんと同じで、答えは分かっているんだけど、でも行きたく

なっちゃう。イツ・ア・スモールワールドの曲と乗るのは、最初から最後まで大体分かっているんですけど、分かっているのに、みんな乗るわけですよね。その魅力は何なのか。中井もそういう魅力を発信できるかどうか。そういうのを発信してくれる方がやっているというのが、この意味じゃないかなと思うんですけど。ぜひ勘違いしないで。

他、何かありますか。

委員 スポーツの所で、『スポーツ実施率を今年度調査』と書いてあるんですけども、これはどう調査を進めるのでしょうか。

事務局 前回、この戦略を策定したときに、町民の方を対象に採らせていただいたアンケートの中で、スポーツ実施をどのくらいの頻度でやっていますかというアンケートを行っていますので、同様の形でアンケートを今回採らせていただいて、それに基づいてこの実施率というのを出していきたいと思っております。

委員 知っている限り、あちこちでやられるんですけども、結構いいかげん。そもそもスポーツってなんだって、定義がいいかげんって言っちゃ変ですけど、日本では別に決まってないんですよ。ラジオ体操を10分やったらワンカウントなのか。いや、そういうのではなくて、いわゆる競技としてやったことを言うのかというのが非常にあいまいで、数字を残さなきゃいけないって目的のためには、そのまま行っちゃってもいいんですけど、将来、本当の意味で健康なまちづくりに繋げるのであれば、ある程度こういうことを目安に、健康診断でもよくありますよね、目安が書いてあって。それだったらやったという。

あまり細かく書くと嫌になっちゃうんで、数字は増えたほうがいいでしょうから、細かく書くことはないと思いますけど、ある程度もう少し、週1回以上というときに、結果で考える人はバツって書くし、私は階段を1日4回上がっているから丸と書いてるし、みんなこれで、どのくらいのカロリーを消費しているかというのはすぐ出ちゃうので、とかいう時代ですから、もう少し丁寧に書いてあげたほうがいいかなという気がします。

というのが1点と、そもそもスポーツ実施率というのは、上の未病を改善するところに繋がるんですね。ですから、これに書く必要はないと思いますけれども、実施率を上げるという策と、イコールそのためには未病センターを利用したほうがいいですよみたいなところを普通はリンクしたほうがいい。未病って結局そういうことですから。ですから、そこをよく考えながら伸ばしてあげるんで、それが結果的には、未病センターの利用率を『△』からプラスにすることになると思うので、未病センターに何度行ったら、それは完全にスポーツですよみたいな。運動とスポーツっていう、基本的に言葉は英語と日本語なんですけど、ある人は別に考えるし、ある人は一緒だと思うし、そういう非常にあいまいなもの。特に最近、あいまいなものがどんどん進歩しているので、この国の作ったものを見ていても、非常に大ざっぱに書いてあるんですね。これは国も数字が欲しいんだろうなと思ってつくづく読むわけですけども、いずれにせよ、そこはしっかり定義付けをしてあげないと、本当に健康な町、中井町という将来のことですから、少し丁寧にお願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。

座長 施策っていうのは、大本に目標がきて、それに対しての施策なんで、施策が成功したらいいかという、そうじゃないんですね。そんなところはぜひ押さえていただいたほうがいいと思います。

例えば、医療データがあるのかどうか分からないですけど、糖尿病の人が減ったとか、高血圧の人が減ったとかというのは、そういう数字とリンクすると実際に意味があります。未病センターに、1週間歩いた数字を報告に来ると点数あげるとか、そうすると、携帯を持っている人は、みんなそこを見せて、そういうことにしたほうが良いし、そういう運動を成功させてる中井町という名前が出るのがすごくいいですね。やっぱり、どこもみんなやっているわけですよ。なので、中井はこういうところを頑張っているというのが見えてくるといいんじゃないかなと。いいですかね。では、ご意見を伺ったということで、議題1のほうで何かまたご意見があるようでしたら、全体でお話していただきますが、よろしいですか。

では、二つの議題についてお話していただきましたので、これで事務局のほうにお返ししたいと思います。では事務局。よろしくをお願いします。

4. その他

資料4及び参考資料に基づき、事務局より資料説明。

委員からは特段意見なし。

5. 閉会

以上